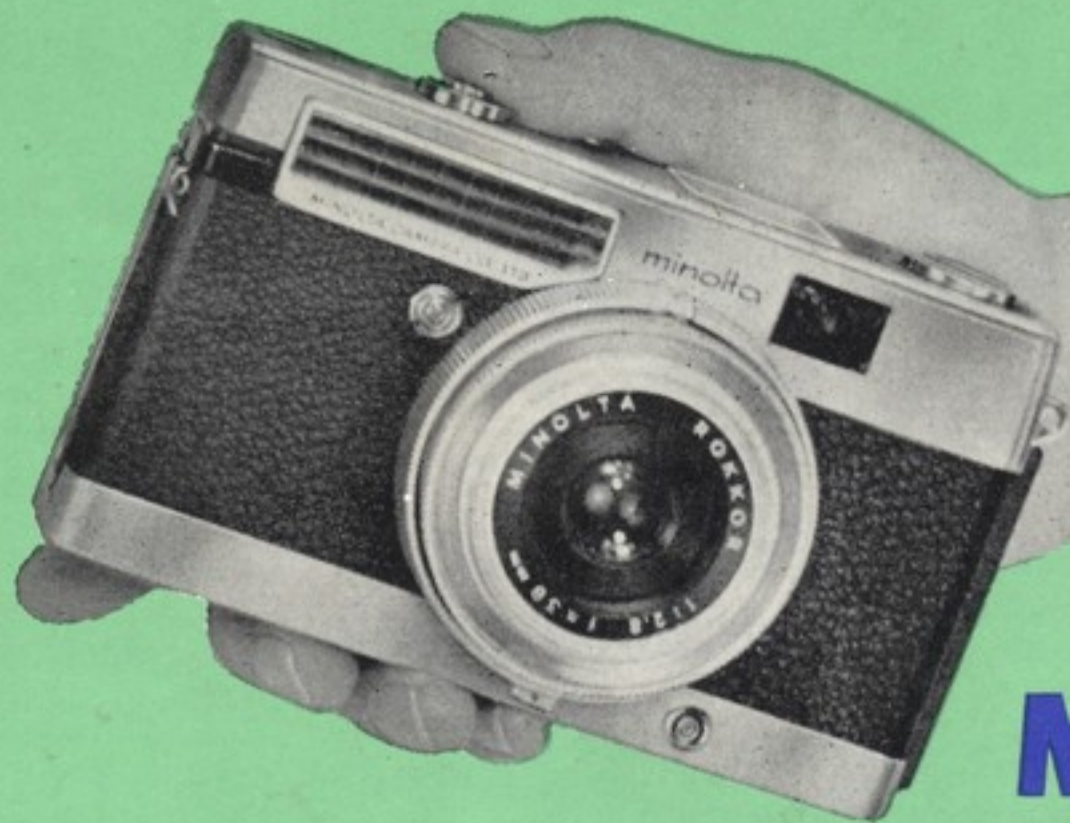


Minoltina-P

使用説明書



Minolta



お買いあげありがとうございます

このカメラは世界のミノルタがこれからの時代にふさわしいカメラとして全く新しい着想のもとに開発したものです

即ち従来の35ミリサイズでしかもピントが極めて良く、加えて極力小がらにすべく努力した画期的な新鋭機です

ハーフ判かと思われる程の小型化、携帯に便利な形状と軽さ、それに数々の新しい感覚を盛りこんでいます

あなたのマスコットとして ご愛用ください

(この使用説明書ははじめにカメラの扱い方を簡単に述べてあります すぐ写したい方はP-11の撮影の方法をご参照ください)

このカメラにはクロームの他ブラックも発売しています
両者とも使用方法は全く同じです

目次

特長	3	7. 手動絞りの決め方	23
主な性能	5	8. バルブ露出	24
これだけで写せます	8	9. セルフタイマーの扱い方	25
各部の名称	9	10. フラッシュ撮影	27
撮影の方法	11	11. 撮影が終わったら	29
1. フィルム感度を合わせる	11	自分でフィルムを入れる方に	31
2. 露出の合わせ方	13	プログラムシャッターとは	34
3. ピント合わせ	17	アクセサリ	35
4. フィルムを巻きあげる	19	1ヶ年間品質保証	38
5. ファインダーの見方	20	各地サービスステーション	40
6. シャッターを切る	22		

特 長



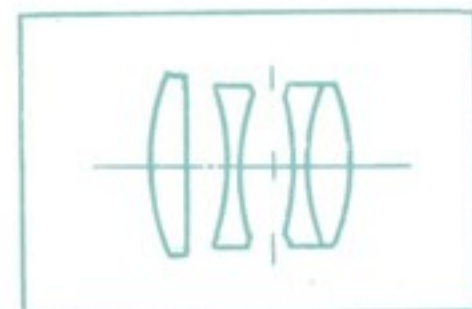
1. 小型・軽量

35ミリサイズ（24×36mm）ながらハーフサイズのカメラ大で重さも440gいつでもどこでも持ち歩け、パチパチやれます
それに35ミリ（24×36mm）サイズですから写した写真がシャープとくに、カラーの出来ばえがすぐれています



2. 扱いやすい露出合わせ

写すものにカメラを向け、指針に追針（緑色）を合わせるだけで絞りとシャッター速度の二つが自動的に決ります。とくにメーター合わせの窓が大きくて見やすいのが特長です



3. 最高級のレンズ

薄型カメラ用に新しく設計された 広角f2.8/38mm付です
3群4枚のテッサー型ですが、当社独自の新種ガラスを導入して各収差を完全に除去しています。小さいネガから大きく引伸してもシャープさが失なわれない高品質のレンズです
又広角レンズですからピントの合う奥行きが広く、いちいちピントを合わせる必要もありません
勿論カラー写真に対しても最適な収差補正がなされています



4. 独特のセルフタイマー

超小型カメラにセルフを組み込むことは極めて困難なことですがミニoltaの技術によつて克服し見事に内蔵しました
このカメラの真価をより高めることでしょう

5. 合わせやすいピント合わせ

ゾーンフォーカス式のピント合わせを採用しています。とくに各ゾーンが大きく見やすいので急ぎのスナップ等にも早くピントが合わせられます

3ヶ所 (1.2m、2.5m、7m) にクリックストップがあります。レンズの深度が深いのでいちいちピントを合わせなくても充分鮮鋭な写真が撮れます

6. その他

露出の調整が簡単なこと、ピント合わせがすばやくできるゾーンフォーカス式、小型ながら操作のしやすい巻上げレバー、それにセルフタイマーの内蔵など扱いやすいカメラにするために、とくに大きい役割をもっています

また、フィルムを入れる上に便利な蝶番式裏蓋やオートマチックカウンターなど高級カメラの機能を数多く備えています



主な性能

型 式	J 135 フィルム (パーフォーレーション付35 ミリ フィルム) 使用の画面サイズ24×36mm露出計連動カメラ
露 出 計	セレン光電池式露出計内蔵
連 動 方 式	プログラムシャッターに連動した追針式
連 動 範 囲	ASA100のフィルムに対しEV8—17
使用フィルム域	ASA25~800、DIN15~30
レ ン ズ	ロックール F2.8/38mm (3群4枚) 画角60.5°
シ ャ ッ タ ー	シチズンL プログラムコントロール方式で EV8 (F2.8 $\frac{1}{100}$) ~ EV17 (F22 $\frac{1}{250}$) の範囲にシャッター速度と絞りの二つが自動的に決まる B及び $\frac{1}{2}$ マーク (赤の絞り目盛) ではプログラムが解除 独自のセルフタイマー付
フ ラ ッ シ ュ	X接点、EV操作リングを回し赤の絞り目盛 $\frac{1}{2}$ マークの範囲にすると、シャッター速度が $\frac{1}{100}$ となる スピードライトの他M級も同調する
焦 点 調 節	前玉回転式で3点クリックゾーンフォーカシング方式 (1.2m、2.5m、7m) 距離目盛0.8m~ ∞ 、2.6feet~ ∞

手動絞り	BにするとF2.8開放となるので、長時間露出ができる。又Gマークの範囲ではシャッター速度 $\frac{1}{30}$ に対する各絞り値の撮影ができる	
フィルム巻きあげ	レバー式巻あげ	回転角180°小刻み可能 セルフコッキング 二重撮影防止付
ファインダー	アルパタ式ファインダー	パララックス補正マーク付 倍率0.44
カウンター	順算式枚数計 オートマチック ゼロリターン	
大きさ・重量	124×73×49ミリ	440g
アクセサリ	39ミリかぶせ式フード フィルターねじ径25.5ミリ（ネジ込み式） 専用アクセサリクリップ ハードケース	

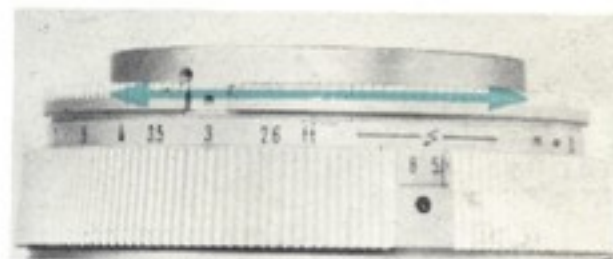
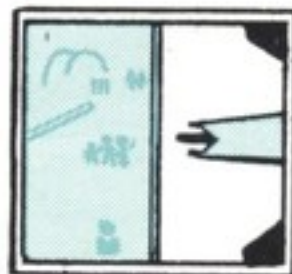
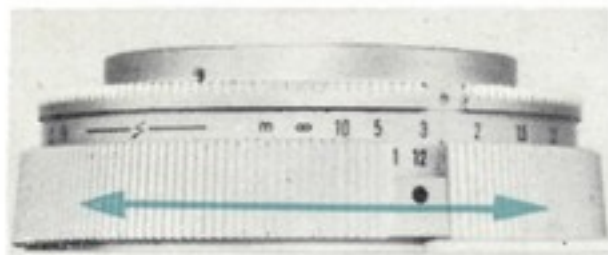
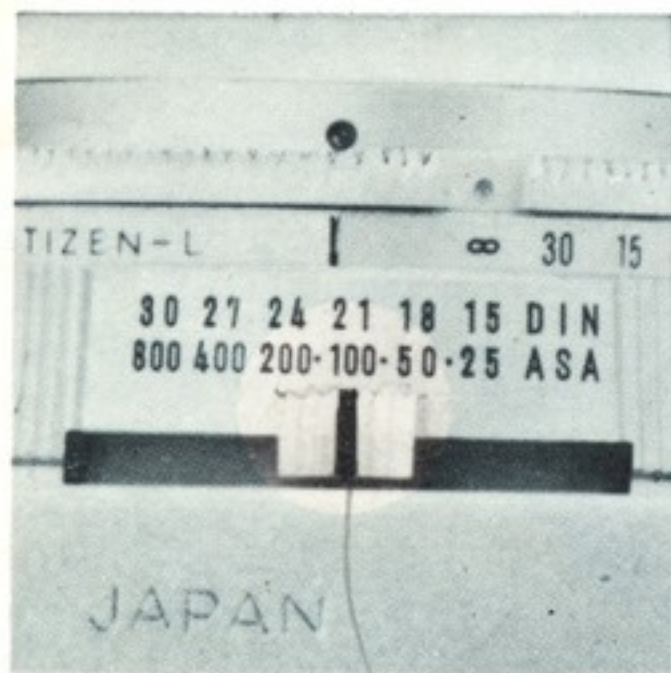


このカメラには専用のアクセサリクリップが各カメラごとに付属しています。フラッシュ撮影のときご利用ください



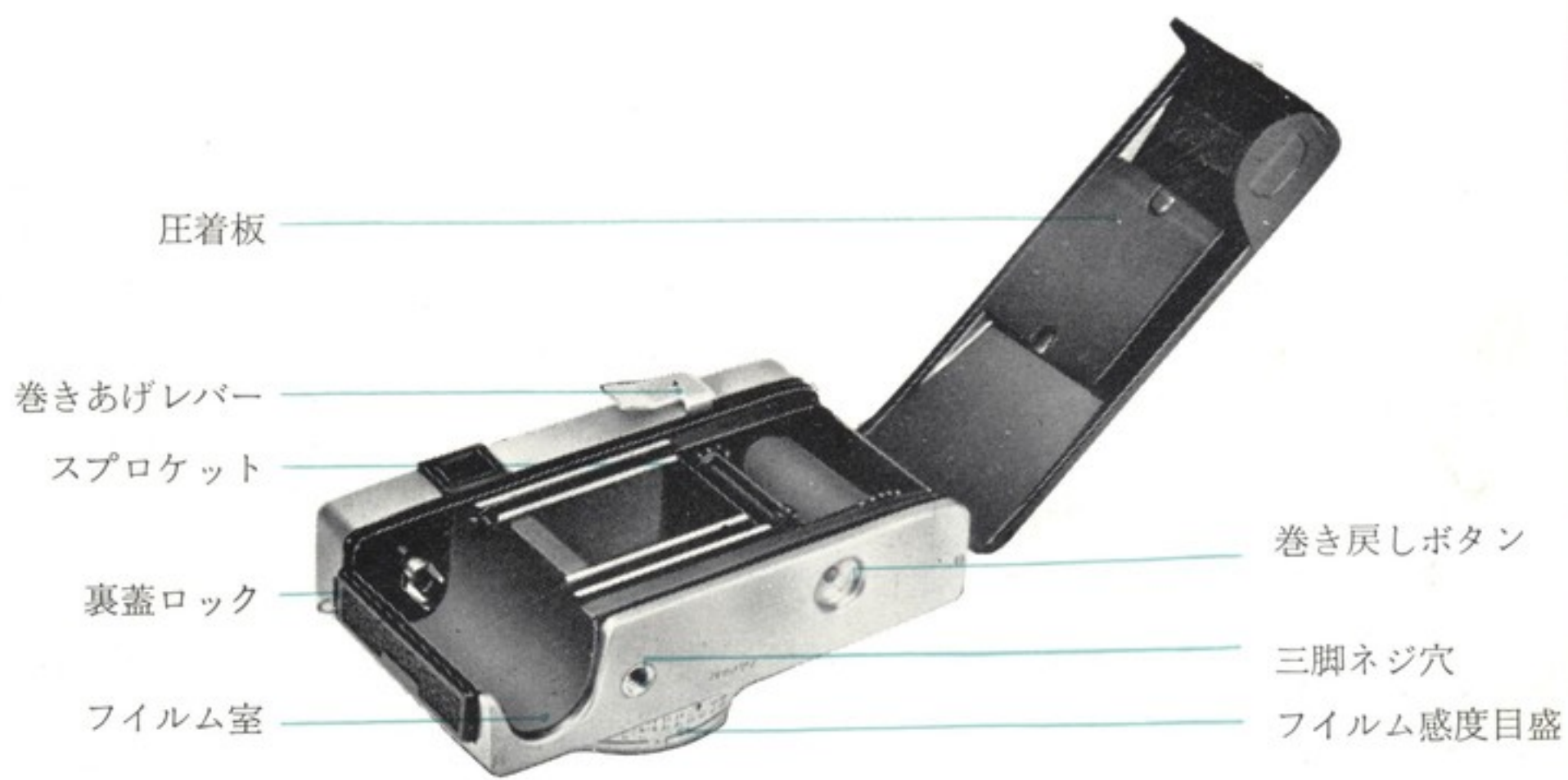
これだけで写せます

1. フィルム感度を合わせる
2. メーターの針と針を重ねる
3. ピントを合わせる
4. シャッターを切る



各部の名称





圧着板

巻きあげレバー

スプロケット

裏蓋ロック

フィルム室

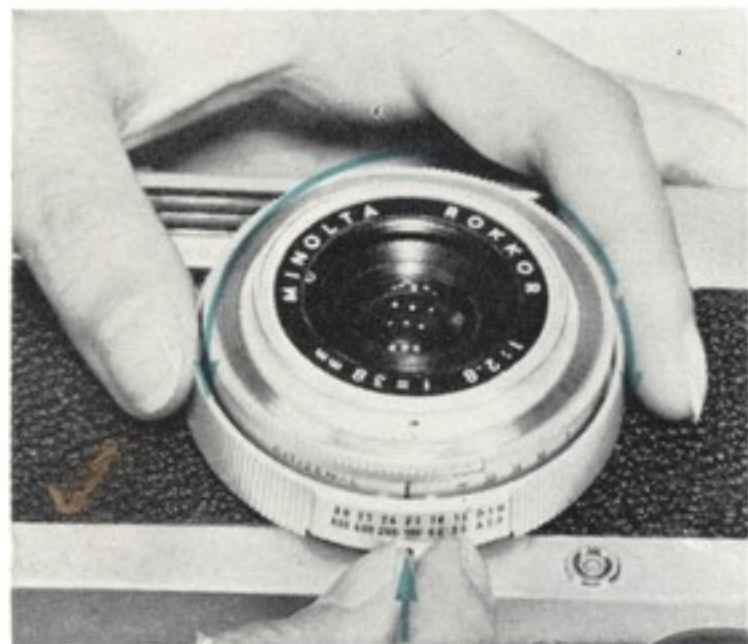
巻き戻しボタン

三脚ネジ穴

フィルム感度目盛

撮 影 の 方 法

フィルムを入れてから次の操作をします



1. フィルム感度を合わせる

使用のフィルム感度目盛にカメラの感度合わせレバーの黒い指標を合わせます

△この時感度合わせレバーを右手で押さえ、左手でメーター合わせリングを廻わして合わせると便利です

△フィルム感度目盛はASA、DINの2種で各目盛は下記の通りです

ASA	25	•	50	•	100	•	200	400	800
DIN	15	↓	18	↓	21	↓	24	27	30
			(32)		(64)		(160)		

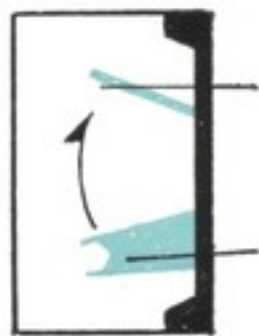
中間の・点は括弧内の数字のフィルムを使うとき利用します

ASA、DINはフィルム感度を示す数字です例えばSSのフィルムはASA 100ですから、写真のようにASA目盛100に指標を合わせます

○フィルム感度の目盛合わせはフィルムを入れたとき一度合わせれば良いのです

フィルム (ASA) 感度一覧表

フ イ ル ム 名		ASA (昼光)
白	コニパンS、ネオパンS	50
	コニパンSS、ネオパンSS	100
黒	コニパンSSS、ネオパンSSS	200
カ ラ ー	さくらカラー	50
	フジカラー R100	100
	コニカラー ネガ	50
	フジカラー ネガ	64
	オリカラー ネガ	50



2. 露出の合わせ方

- a 写したいもの（被写体）にカメラを向けるとメーターの指針（赤色）が働きます
- b メーター合わせリングを回して追針（緑色）を赤色の指針に重ねます
- c 以上の操作で、露出合わせが完了しました。（これで最適の絞り、シャッター速度がセットされています）

この時

- ◎メーター合わせリング上の凹部の黒点がEV値（8-17）を示します
- ◎被写体が暗い場合指針に追針を合わせるとき、EV目盛が8を越えて赤色のB（バルブ）とかが絞り、値（2.8~16）になることがあります
このような時は露出計による撮影ができないのでフラッシュ撮影をして下さい（フラッシュの項参照P-27）



- ◎メーター合わせリングがEV目盛8をこえてBに廻る時、警告のクリックがあります
ご注意ください
- ◎露出計の測定範囲はASA 100のフィルムに対しEV7~17ですが連動範囲はEV8~17までです



露出が合わないとき



露出が合ったとき

注 意



1. メーターで測定するときはメーターの受光窓を手でおおわないようにすること
2. 緑の指標を赤の指針に合わすときはメーター部の上から見て正確に緑指標の谷を赤の指針に合わせること
3. 暗すぎたり明るすぎるときは、メーター指針がメーター合わせ窓の上下の黒い指標に入ります
この時はメーターの測定範囲外ですから適正露光はえられません
4. 被写体が暗いとき、緑の指標がメーター合わせ窓の下（レンズの反対側）の方でEV8のクリックをこえてBの方向になります。このEV8のクリックをこえてBになる間では指針と指標を合わせても適正露出になりません
感度の低いフィルムを使つたとき特にご注意ください



3. ピント合わせ

ピント合わせはフォーカスリング外周の距離目盛で行ないます

目盛はメートルで0.8~∞、フィートで2.6~∞まで刻まれています。

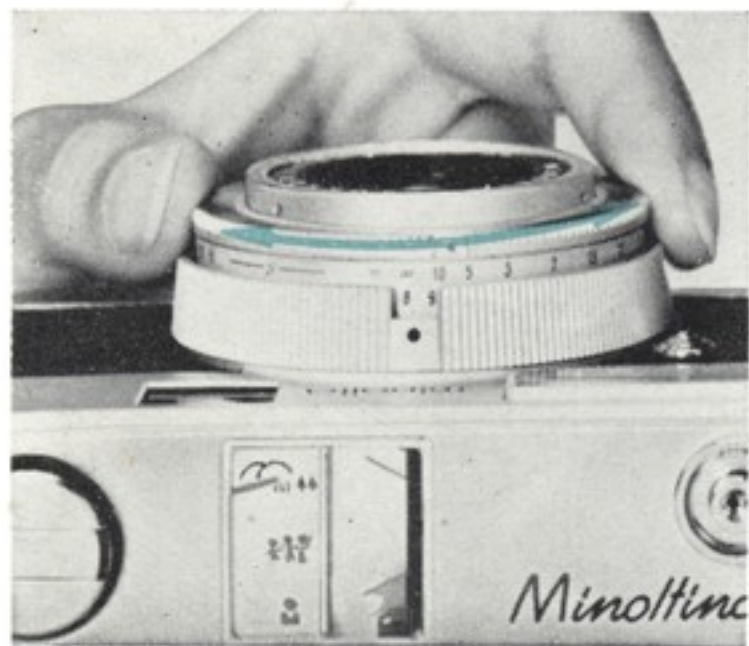
このレンズはピントの合う範囲が深いので1m以内の近距離以外は目測で充分です

一般のピント合わせはピント合わせ窓の3つの絵(ゾーンフォーカス)から写したいものに適したものを選びます

フォーカスリングを回わし緑の指針をゾーンフォーカスに合わせます

これでピントが合いました

被写体までの距離を正確に合わす必要がある時はフォーカスリング外周の距離目盛をご利用下さい



○被写体距離とゾーンフォーカスマークの関係

1.2m

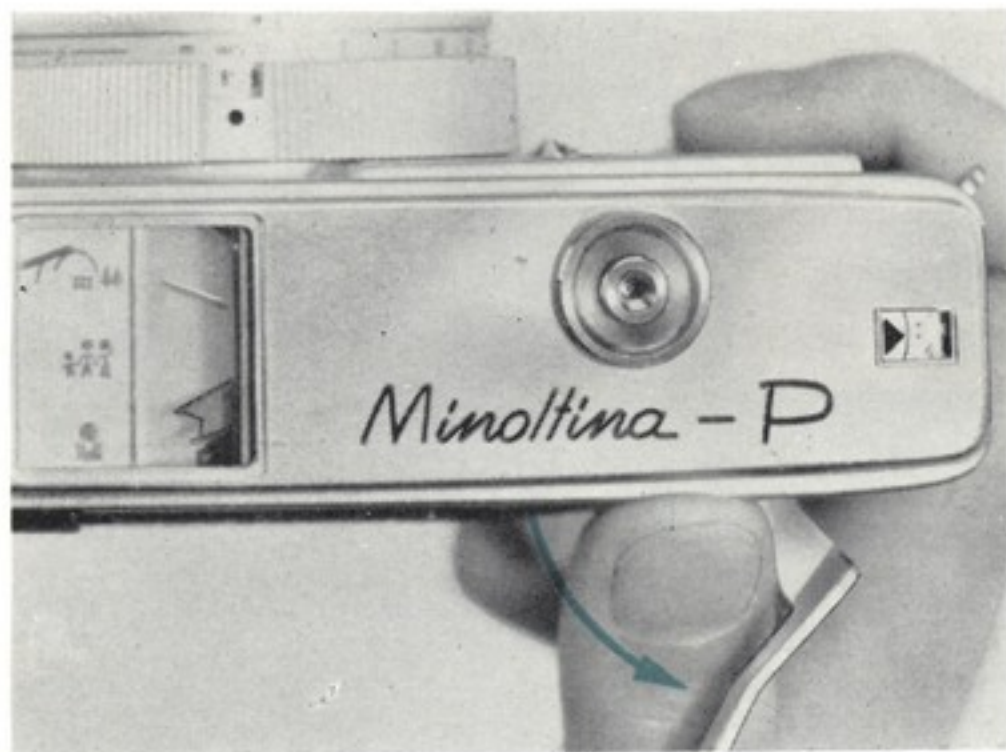


2.5m



7 m





4. フィルムを巻きあげる

△フィルム巻きあげレバーを（写真のように）止まるところまで巻きあげます

これによって撮影される新しいフィルムが撮影画面に現われて同時にシャッターがセットされ、撮影の準備が完了します



5. ファインダーで写す範囲を決める

ファインダーを覗くと視野の周辺部に明るい光の枠が見えます

これをブライトフレームと呼びこの光像枠内が実際に写る範囲を示します
撮影したい範囲をこの光像枠内一ぱいに入れて構図を決めます

- ・近距離 1 m以内では、ファインダーとレンズの視差（パララックス）がありますので「形枠の範囲内に被写体をいれてください



6. シャッターを切ります

撮影範囲が決まったらシャッターを切ります。
(シャッターボタンを静かに押して下さい)

・押すときの注意

カメラは作例のように両腕をしつかり身体につけて充分固定さすよう注意して構えます。(なれると片手でパチパチ撮っても結構です)

写真右 横にかまえる

写真左 縦にかまえる

- ・逆光の撮影ではレンズ部に光が入らぬようにレンズフードを取付けて下さい

△撮影目的によつて適当なフィルターを用いる時露出倍数をASA目盛で加減するかEV目盛で調節してください

例えばASA100のフィルムを用い露光倍数×2倍のフィルターを用いる時は $100/2=50$ をASA目盛に合わせます

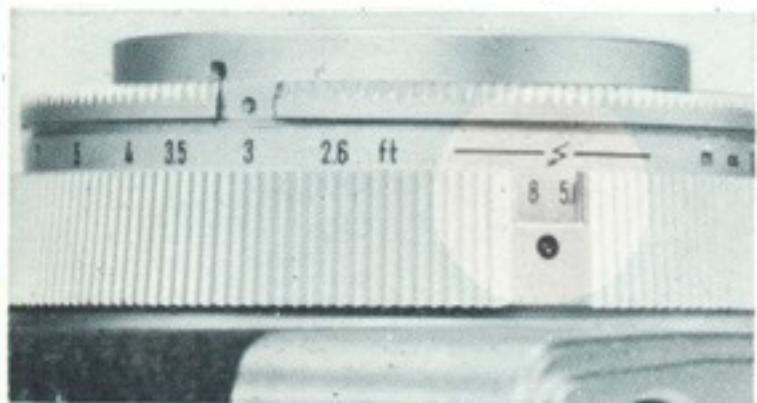
或はASA100の時の露出がEV10の場合はEV9にしてもよいのです



7. 手動絞りの決め方

露出計の連動撮影をしないで、どうしても手動絞りをやりたいときはメーター合わせリングをMマークの範囲に回わします

このときシャッター速度は $\frac{1}{30}$ となりますので、その速度に適した露出になる各絞り値を自由に選定してください。

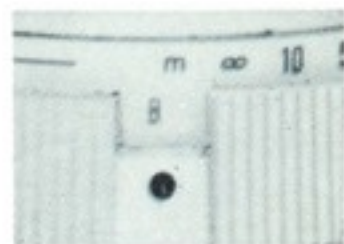


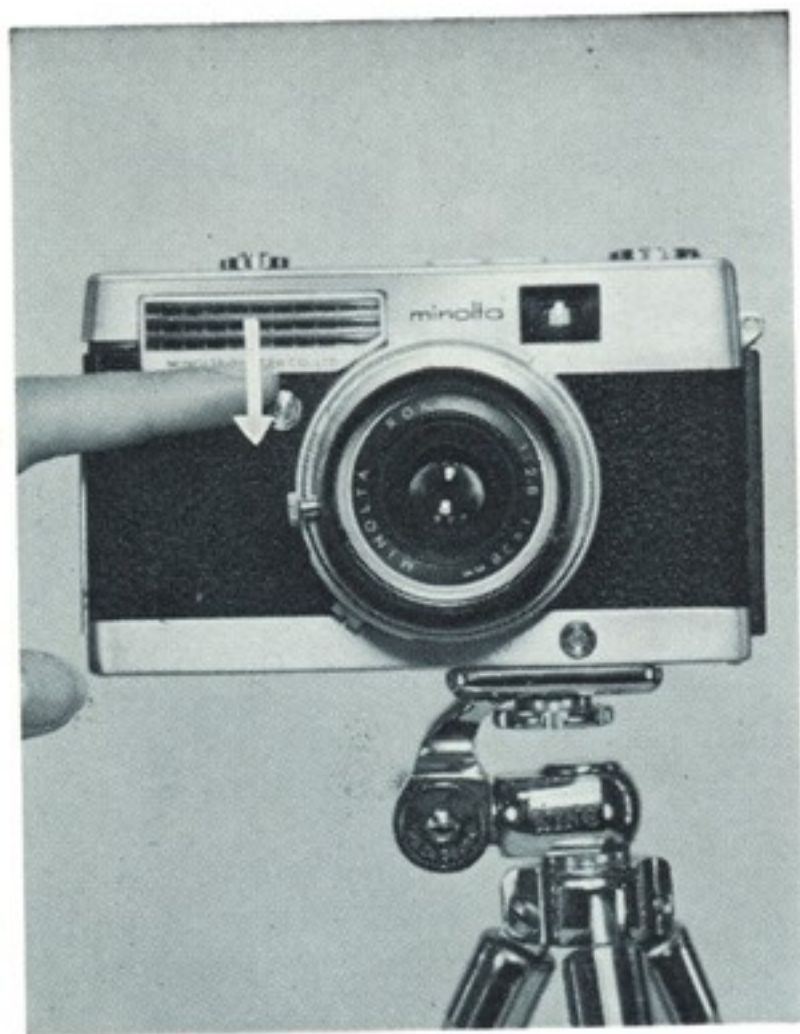


8. バルブ露出 (B)

Bはバルブ露出の意味で、シャッターボタンを押している間中シャッターが開き、離すと閉じますから手加減で自由に長い露出をかけたい時に用いますこの時の絞りはF2.8です

長時間露出を与えるときは、必ず三脚とレリーズをご使用ください





9. セルフタイマーの扱い方

旅行などの記念撮影にセルフタイマーがあるととても便利です
このカメラにはセルフタイマーをそなえています

使い方

フィルムを巻きあげてセルフボタンを下に押しさげると（写真の矢印方向）約10秒間セルフが働いてシャッターが切れます

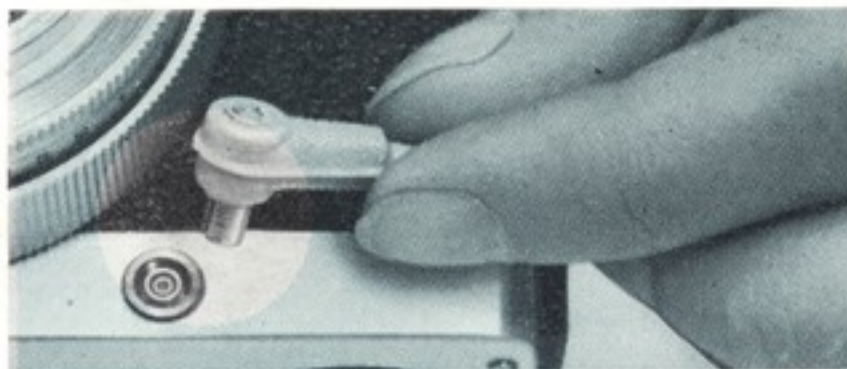
△このときピントや露光合わせを忘れぬようにしましょう



10. フラッシュ撮影



シンクローターミナルに差し込む



メーター合わせリングを↓に合わせる



準備

このカメラ専用のアクセサリークリップを取付けます

クリップにフラッシュユガンを取付けます

コードの先端をシンクロターミナルに差し込みます

メーター合わせリングをMマーク（赤い絞り値）の方に回します。（この時シャッター速度は $\frac{1}{100}$ となる）

使用フィルムに対するM球バルブ又はスピードライトのガイドナンバーによつて被写体距離により絞り値を決めます

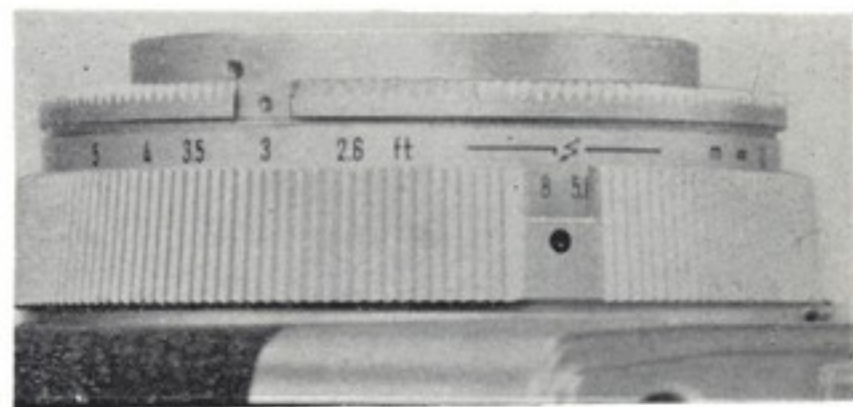
△ガイドナンバーはM球バルブ又はスピードライトを購入すると、各使用フィルム、シャッター速度に対するガイドナンバーが記入してあります

△絞り値はガイドナンバー÷被写体距離で決ります

例

ASA100のSSフィルムでシャッター速度 $\frac{1}{100}$ 球のガイドナンバー24のとき被写体距離が3ftとすれば $24 \div 3 = 8$ より絞りをf8にします

△このカメラはM球及びスピードライト（ストロボ）の何れにも同調します



11. これで撮影が終了しました

(フィルムの巻戻し、取り出し方)

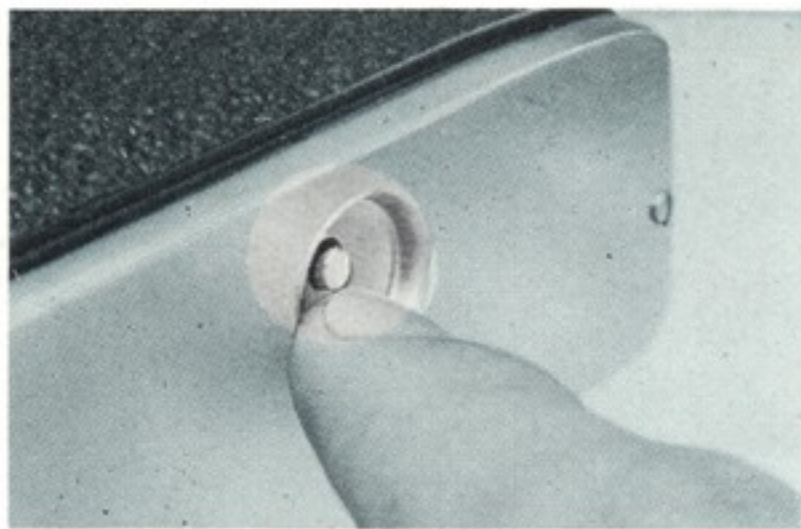
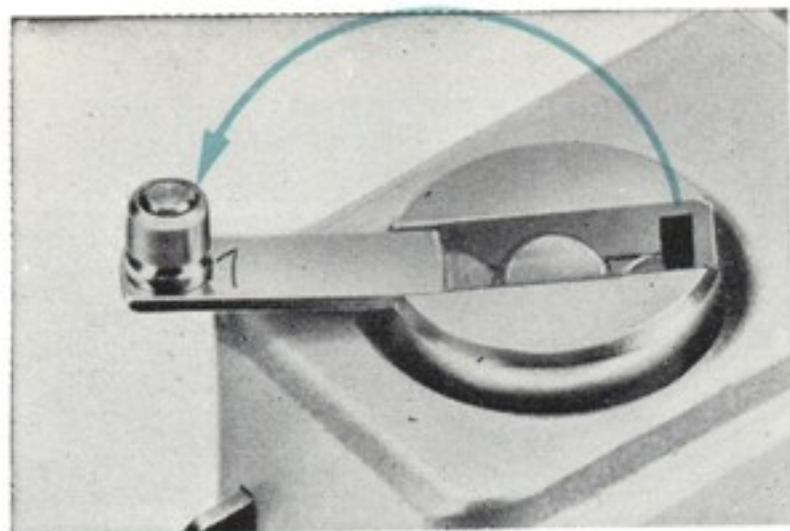
35ミリのフィルムは裸の状態です。巻取られていますから撮影後必ずもとのパトローネに巻戻さねばなりません。(撮影後すぐ裏蓋を開かないで下さい)

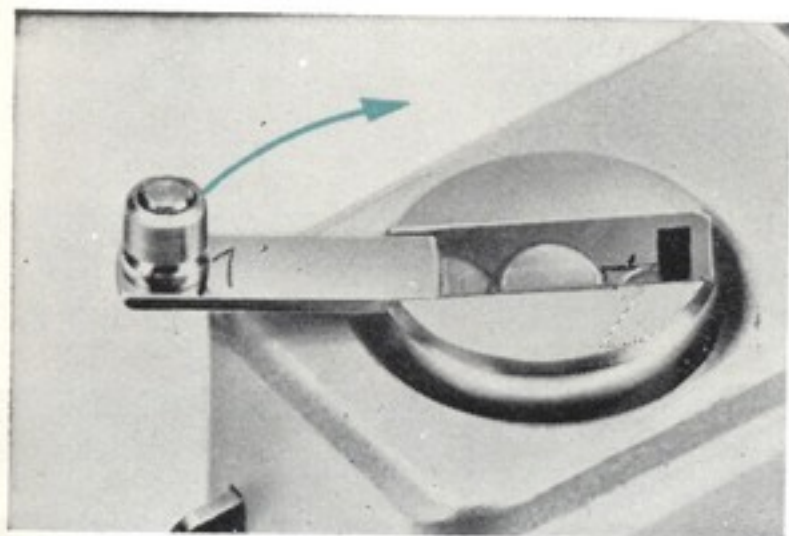
フィルムを巻戻すには

1. 巻戻しクランクをおこします

2. 底部の巻戻しボタンを押しあげます

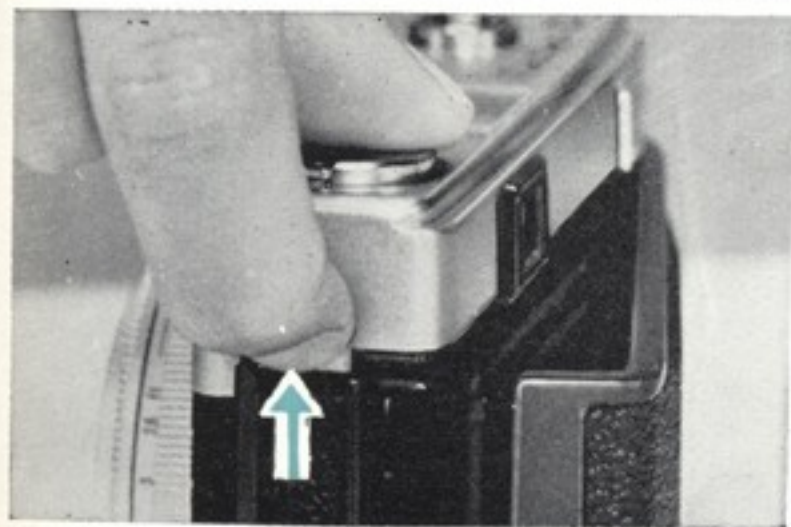
このボタンは巻戻し中に指で押しつづけている必要はありません





3. 巻戻しクランクを矢印方向に静かに回わしますとフィルムはパトローネの中へ巻込まれてゆきます

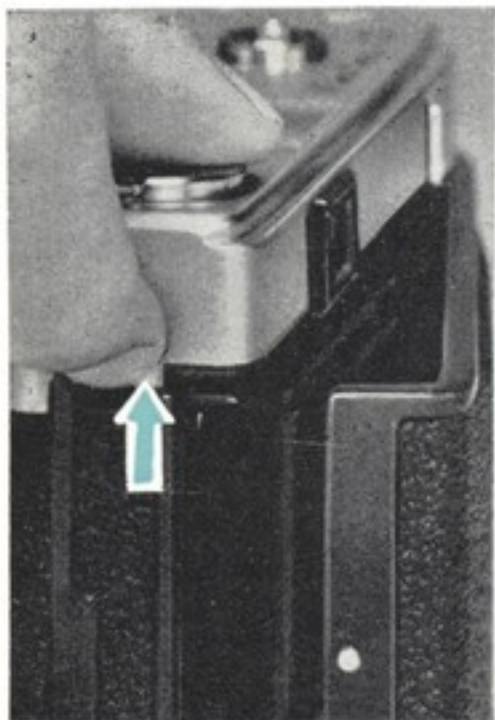
最後にフィルムが巻取り軸から外れて巻戻しが急に軽くなりますこのときフィルムは全部巻戻されています



4. 裏蓋をあけてフィルムを取ります
- ※ 取出したフィルムは強い光が直接当らぬようにしてください

ご自分でフィルムを入れる方に

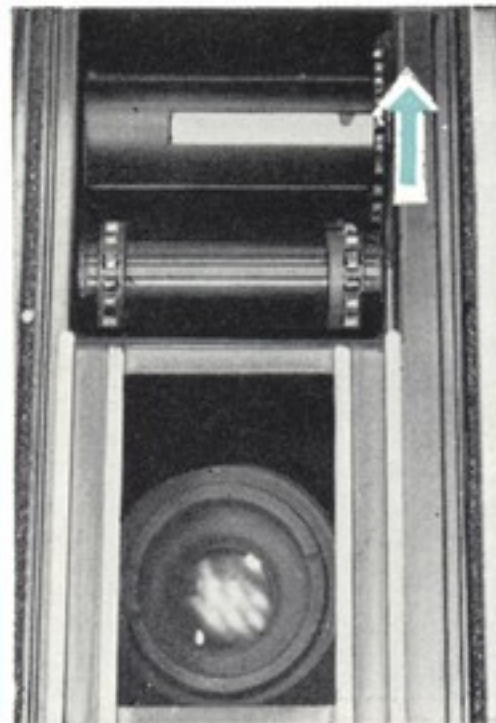
- (1) 裏ぶたを開く
裏ぶたのロックを矢
印方向に引くと裏ぶ
たが開きます



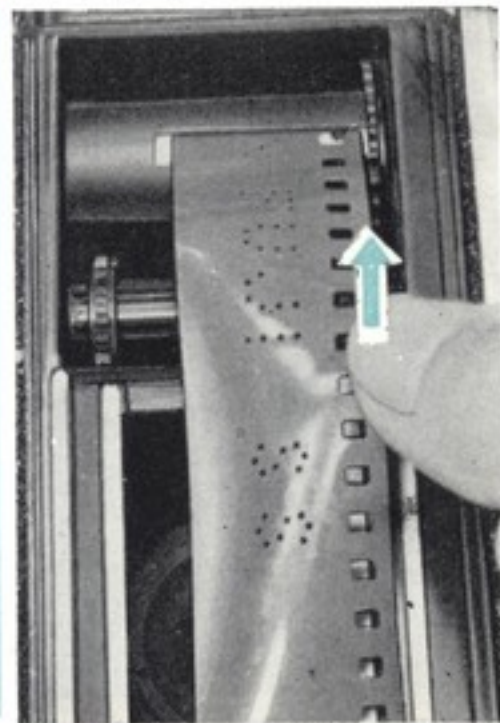
- (2) このときフィルム
カウンターはスター
トマークの赤点を自
動的に示します



- (3) フィルムの先をま
きとり軸の溝にさし
込みます
(a) 巻きとり軸のギザ
ギザを回してフィル
ム差込み溝を上側に
だします



- (b) フィルムの先を差
込み溝のすき間の向
う側へさしこみます
(写真のように)

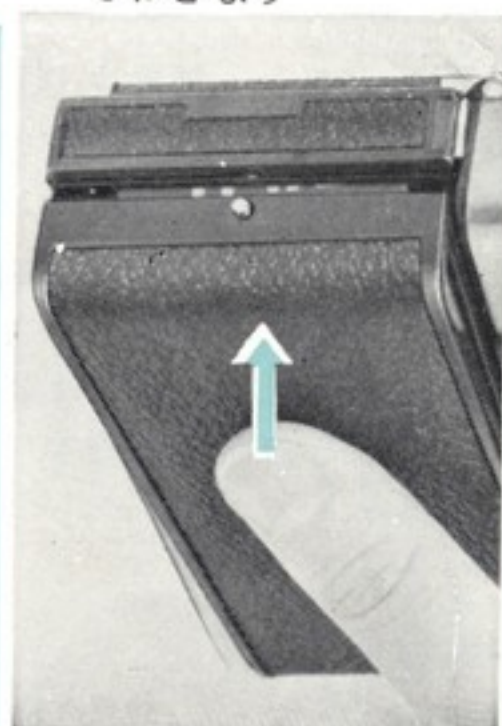
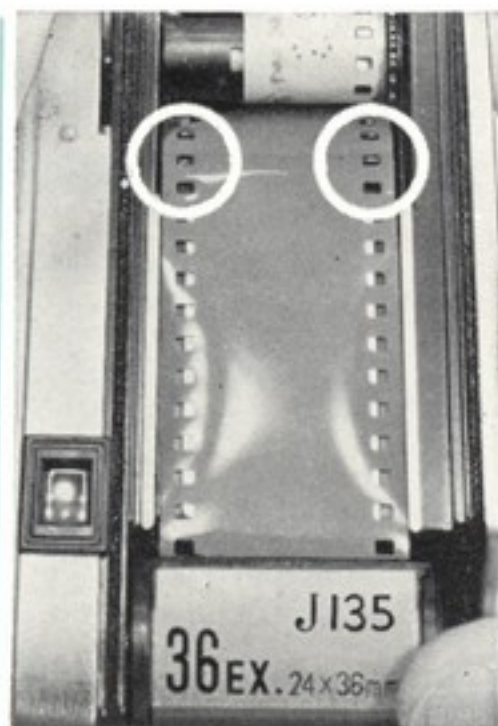
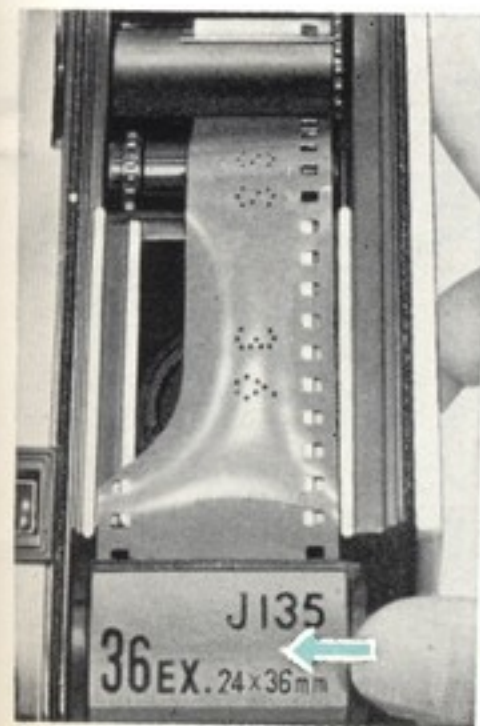


(4) パトローネをフィルム室におさめます。このとき巻戻し軸のパトローネ軸受にパトローネ軸を合わせます

(5) 巻きあげレバーを回してフィルム両側の穴にスプロケットの歯がかみ込む迄フィルムを巻きとります(もし途中で巻きあげレバーが止まるとシャッターボタンを押して巻きあげてください)

(6) フィルムが正しく送られていることを確認してから裏ぶたを閉じます。ふたは軽く押すと自動的に閉まります。
※このとき、巻き戻しクランクを軽く時計方向に回してフィルムのゆるみをなおしておきます

(7) フィルムコマ数計を合わせる。裏ぶたを閉めるとカウンターは赤点(スタートマーク)を指しています。1がでるまでフィルム巻きあげレバーを巻いてカラ写しをします



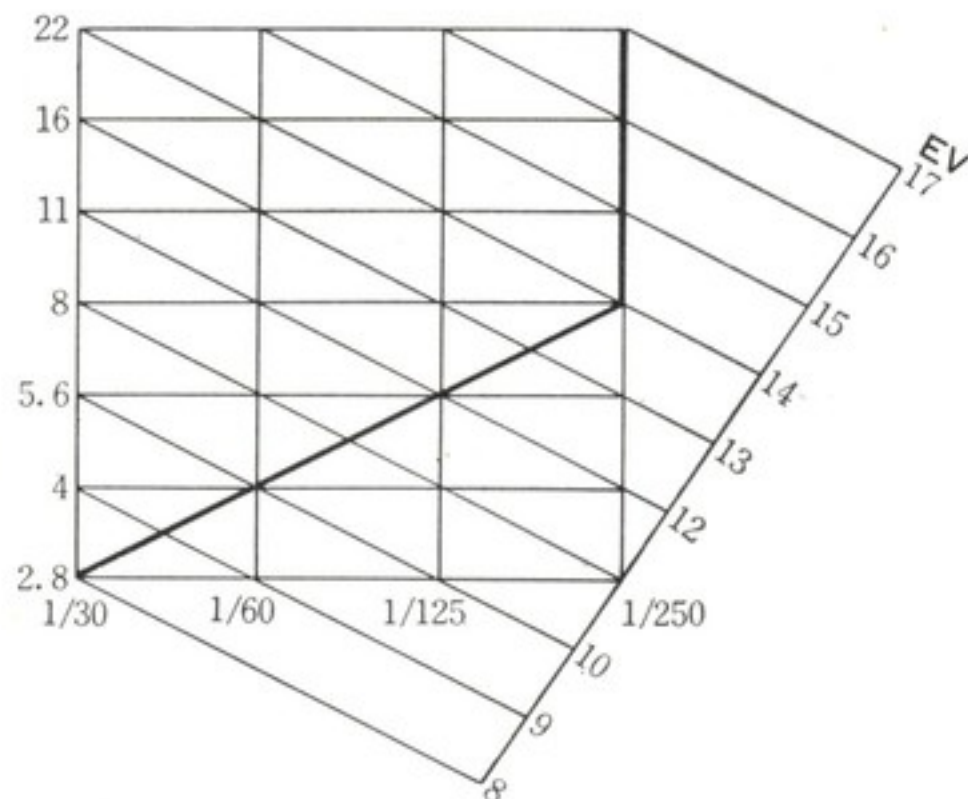
注 意

「フィルムカウンターは自動復元式ですから裏ぶたを開くとスタートマークにもどります」
あとは撮影操作を繰り返すことによつて自動的に撮影枚数が表示されます

※フィルムコマ数計は順算式で1～36枚まで示されます。35ミリのフィルム20枚撮りを用いた時は赤字の20が最終枚数を示します

※フィルム巻きあげレバーを巻きあげたとき巻戻しクランクが同時に回転すれば正常です
若しくランクが回らない時はパトローネ内でフィルムがゆるんでいることがあります

シチズンLの各EV値に対する絞り・シャッターの関係



プログラムシャッターとは

日本で最初に開発したミノルタのプログラムシャッターです。プログラムシャッターを用いたカメラは、露出を決めるとき絞りやシャッター速度の二つの操作が一度で決まります

シャッターが露出計と連動するカメラの中でも、何らの経験とかカンを働かせなくても立派な写真が撮れるという大きな特長をもっています

プログラムシャッターとは写したいものの明るさに応じて、あらかじめ決められた適当な1組の絞りとシャッター速度を組合わせたシャッターをいいます

この変化は次図のようになつており、EV 8ではF2.8 $\frac{1}{30}$ 、EV 17ではF22 $\frac{1}{250}$ というように組合わせが決められています

このカメラではこのプログラムシャッターに露出計を連動させており、シャッター速度と絞りの組合わせを連続無段階に調節させています



アクセサリー

フィルター

UV ねじ径25.5ミリ ¥300

紫外線のみ吸収するので海浜の高山などの撮影にご利用下さい

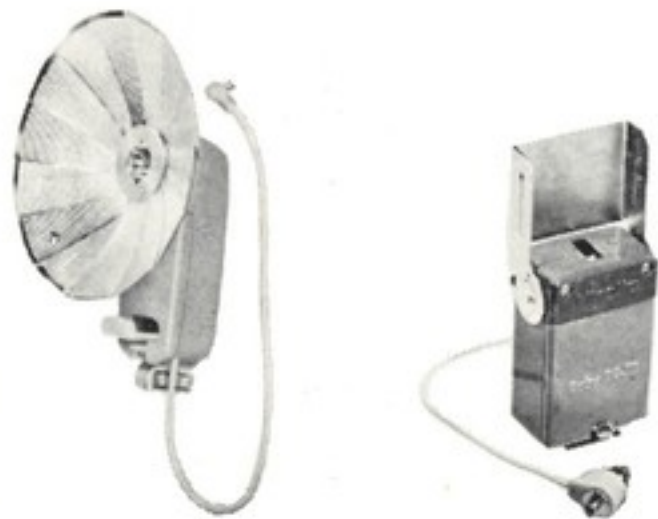
又露出倍数がかかりませんので、レンズの保護としてつけっぱなしにしてもよく、カラー撮影の常用フィルターとしても役立ちます

Y-48 ねじ径25.5ミリ ¥300

白黒フィルムで撮影するとき海浜雲のある風景等の撮影で、青味をおさえ白雲を強調するとき効果的です

リリース ¥250

Bにして長時間露出を行うときカメラブレを防止するのに用います



デラックス フラッシュガン ベビーBCⅢ



レンズフード

フラッシュガン

夜間やうす暗い光量不足の場所で撮影するとき
用います

ミノルタベビーBCⅢ ¥900

(超小型のフラッシュガンでAGタイプ専用の
ポケットガンです)

ミノルタ デラックス フラッシュガン ¥1400

レンズフード

レンズに入る不必要な有害光線を除去しスッキ
リした映像を作ります

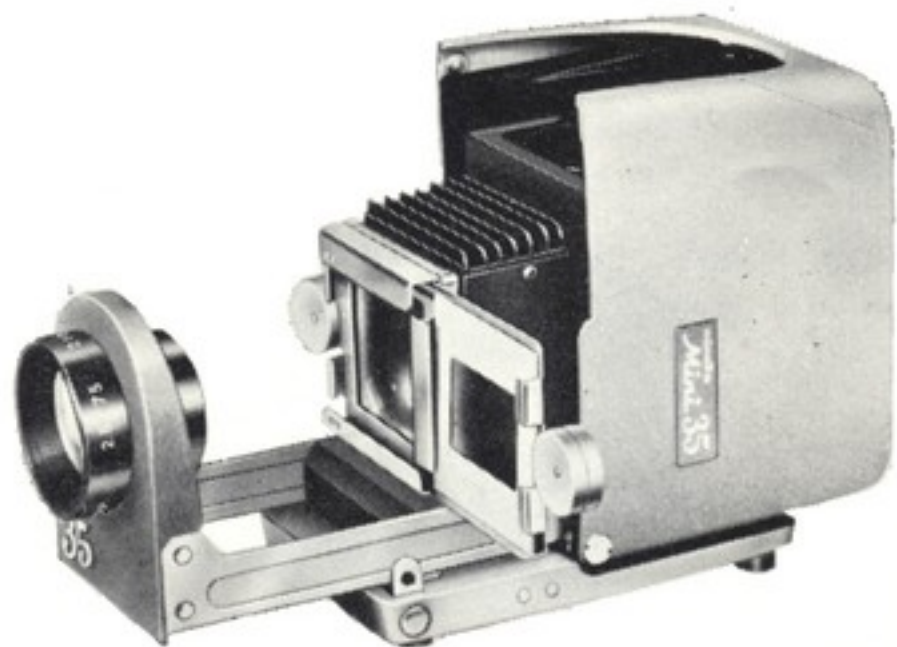


カラー写真を楽しむために

ミノルタ ミニ 35スライド

本体 ¥4450

ケース ¥350



1 カ年間品質保証

カメラの化粧箱の中に入っている愛用者カードは所要事項をご記入の上10日以内に切手を貼らずにミノルタカメラ宛お送り下さい、そうすればあなたのカメラは当社の台帳に記載され折返し1カ年保証証書をお送り致します。修理のときも今後のあなたとの通信連絡、或は万一の盗難の時にも役立ちます。万一故障の場合は直ちに各地サービスステーションへご相談又はお送り下さい。

サービス・ステーション



各地サービス・ステーション所在地

東京	東京都中央区銀座東 6-7 (木挽館新館) TEL (542) 1261 (代表)
新宿	東京都新宿区角筈 1 丁目 1 (新宿ステーションビル) TEL (352) 6 5 5 2
大阪	大阪市南区塩町通り 4-18 TEL (271) 8671 (代表)
名古屋	名古屋市中区広小路通り 4 の 8 (名神ビル) TEL (22) 8 7 6 1
福岡	福岡市大浜町 3 丁目 25 番地の 2 (迎陽ビル) TEL (2) 3 7 5 6
札幌	札幌市北二条西 3-1 (越山ビル内) TEL (25) 9 6 8 1
広島	広島市基町 7 番地 (第二広電ビル) TEL (21) 0 2 8 6
仙台	仙台市勾当台通 八 番地 (熱海ビル) TEL (23) 8 7 8 3
新潟	新潟市東大通 一 丁目 23 (マルタケビル) TEL (4) 3 0 2 6

Minolta



ミノルタカメラ株式会社

大阪市南区塩町通り4の18 TEL(271)8671

東京都中央区銀座東6の7 TEL(542)1261